



2023年12月期 第1四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2023年5月12日

上場会社名 株式会社KeyHolder 上場取引所 東
 コード番号 4712 URL <https://www.keyholder.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大出 悠史
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 柴野 光平 TEL 03 (5843) 8888
 四半期報告書提出予定日 2023年5月12日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第1四半期の連結業績（2023年1月1日～2023年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第1四半期	6,997	66.9	1,208	87.4	1,195	40.2	1,004	34.9	1,001	32.9	1,004	34.6
2022年12月期第1四半期	4,191	13.1	644	△7.5	852	△18.7	744	△22.7	753	△23.6	746	△22.4

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第1四半期	53.28	53.28
2022年12月期第1四半期	39.79	39.79

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2023年12月期第1四半期	27,353	18,621	19,014	69.5
2022年12月期	26,422	17,994	18,389	69.6

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2023年12月期	—	—	—	—	—
2023年12月期（予想）	—	0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年12月期の連結業績予想（2023年1月1日～2023年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	24,000	8.8	2,200	8.6	2,000	6.5	106.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(注) 詳細は、添付資料P. 14「2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記(5)要約四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年12月期1Q	18,967,410株	2022年12月期	18,967,410株
② 期末自己株式数	2023年12月期1Q	319,409株	2022年12月期	130,909株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年12月期1Q	18,798,716株	2022年12月期1Q	18,934,713株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 6「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	8
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	8
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	10
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	12
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
(会計方針の変更)	14
(セグメント情報)	15
(重要な後発事象)	17

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、社会経済活動が正常化に向かう中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待されております。しかしながら、全世界的な情勢への不安感や不透明感がみられる中で、物価の上昇や金融資本市場の変動、供給面での制約等による景気の下振れリスクに十分注意する必要があり、先行きは予断を許さない状況であります。

当社グループにおける、各事業を取り巻く環境も日々変化しており、一般消費動向の影響を受けやすい事業も一部あるものの、機動的に必要なかつ十分な対策を行うこととし、政府からの要請等に対しては、積極的な措置を講じております。

このような中、2023年2月14日付け「株主優待制度の再開及び基準日の変更に関するお知らせ」のとおり、株主様への還元施策として、休止しておりました株主優待を再開することを決定したほか、同年3月9日付け「自己株式の取得に関するお知らせ（会社法第165条第2項の規定による定款の定めに基づく自己株式の取得）」のとおり、今後の経営環境に応じた機動的な資本政策の遂行並びに組織再編等を見込み、2023年3月10日～同3月17日の期間におきまして、当社普通株式200,000株（取得総額：200,635,521円）を取得するなど積極的な取り組みを実施いたしました。

その他の動きといたしましては、2023年2月1日付けで、当社の100%子会社である株式会社 a l l f u z（以下「AF」という。）が、「乃木坂46公式ライバルグループ」の立ち上げプロジェクトに資本参画し、今後の同グループにおけるマーチャンダイジングや広告代理店の分野で携わる予定である旨をお知らせしております。

総合エンターテインメント事業では、既存アーティストによる大型の周年イベントの開催やライブ・ツアーのほか、ドラマやアニメ等とのタイアップを複数実現したことに加え、その他のタレントにつきましても、ドラマや各種番組への出演等、積極的な活動を展開いたしました。

映像制作事業につきましては、既存の番組制作の進捗のほか、特番放送されていた番組がレギュラー化されたことに加え、ドラマ制作や参画した映画製作案件において順次公開日が決定するなど順調なほか、海外を含めた動画配信プラットフォーム向けの映像制作を行っております。

広告代理店事業につきましても、前期よりインターネット広告事業及びインターネットメディア事業を開始しており、各種継続案件を着実に積み上げることで売上強化に努めております。

各事業の詳細につきましては、後述のセグメント別概況にて記載しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上収益6,997百万円（前年同四半期比+66.9%）、営業利益1,208百万円（前年同四半期比+87.4%）、税引前四半期利益1,195百万円（前年同四半期比+40.2%）、親会社の所有者に帰属する四半期利益1,001百万円（前年同四半期比+32.9%）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

<セグメント別概況>

〔総合エンターテインメント事業〕

(ライブ・エンターテインメント部門)

同部門につきましては、株式会社ゼスト及び株式会社ノース・リバー並びに株式会社A.M. Entertainmentが、アーティストやタレント、スポーツ選手などのマネジメントを行っております。当社グループの主要アーティストの主な活動内容は以下のとおりであります。

アーティスト名	実施時期	内容：備考欄
SKE48	1月7日、8日	派生ユニット「プリマステラ」静岡出張公演 3rd
	3月5日	6期生10周年記念ライブ
	3月23日	大型アイドルFES「NIG FES 2023」出演
乃木坂46	2月22日	「11th YEAR BIRTHDAY LIVE DAY1」
	2月23日	「11th YEAR BIRTHDAY LIVE DAY2～5期生ライブ～」
	2月24日	「11th YEAR BIRTHDAY LIVE DAY3～4期生ライブ～」
	2月25日	「11th YEAR BIRTHDAY LIVE DAY4～3期生ライブ～」
	2月26日	「11th YEAR BIRTHDAY LIVE DAY5～秋元真夏 卒業コンサート～」
	3月28日	「鈴木絢音 卒業セレモニー」
	3月29日	32ndシングル「人は夢を二度見る」リリース
Novel bright	1月20日～ 2月4日	竹中雄大 口笛コンサート ～Whistling Sound Vol.1～ (兵庫、東京)
	1月28日	「FUKUOKA MUSIC FES. 2023」出演
	2月20日～ 3月15日	NOVELCITY CARNIVAL Vol.3 (名古屋、東京、大阪)
	2月28日～ 3月13日	KICK THE AGE TOUR Vol.2.5 (福岡、大阪、名古屋)
	4月9日～	新曲「Cantabile」がNHK Eテレ・アニメ「青のオーケストラ」 オープニングテーマに決定

各種大型イベントやライブ等の開催における観客の声出しが可能になったことから、当社グループに所属するアーティストの活動におきましても、積極的かつ精力的な活動を展開したほか、併せてファン層の購買意欲も向上していることで、各種イベントにおけるグッズ売上やDVD等の原盤収入も想定を上回っており、業績の積み上げに寄与しております。

上記以外の「et-アンド-」や「若月佑美」、「小栗有以」、「生駒里奈」、「まるり」などの所属アーティストやタレントにつきましても、ドラマや各種イベント、情報番組への出演のほか、アニメや企業とのタイアップなど、様々な場面において活躍の場を増やしております。

(デジタル・コンテンツ部門)

同部門につきましては、アイドルとの恋愛疑似体験ができる恋愛シミュレーションアプリとして、2023年4月でリリースから7周年を迎えた乃木坂46公式の「乃木恋」や、2020年11月の発表より順調にダウンロード数を伸ばしている日向坂46公式の「ひなこい」など、スマートフォン向けのゲームアプリの企画・管理・運営やプロモーションに関わる支援を継続して行っております。

以上の結果、総合エンターテインメント事業の業績は、売上収益3,054百万円（前年同四半期比+31.2%）、セグメント利益1,156百万円（前年同四半期比+58.0%）となりました。

〔映像制作事業〕

同事業につきましては、株式会社UNITED PRODUCTIONS（以下「UP」という。）が既存の人気バラエティ番組や、所属アーティストのMVの制作案件のほか、ドラマ制作、映画製作委員会への出資及び制作を行っております。映像制作における、主な成果（レギュラー化やドラマ、映画製作等）は以下のとおりであります。

分類	放送・公開 開始日等	番組名(補足)
バラエティ	2023年内 配信予定	「トークサバイバー!～トークが面白いと生き残れるドラマ～(Netflix)」のシーズン2の制作が決定
	7月22、23日 放送予定	「千鳥の鬼レンチャン(フジテレビ)」をメインにしたフジテレビ特番「FNS27時間テレビ」の制作が決定
	4月11日～	TBSテレビ「再現できたら100万円!THE神業チャレンジ」が特番を経て、レギュラー番組に昇格
ドラマ	2月10日～	Hulu「社畜OLちえ丸日記」
	4月14日～	NTTドコモ「Lemino」のオリジナルドラマ「アクトレス」
	3月28日～	TBSドラマストリーム「私がヒモを飼うなんて」
映画	6月9日～ 公開決定	横尾初喜監督の最新作、オール長崎ロケーション映画「こん、こん。」
	6月23日～ 公開決定	企画・製作として、人気コミック作品の「君は放課後インソムニア」を原作とした同名映画化作品に携わる

その他にも、既存のバラエティ番組をはじめ、継続的に特番を多数制作しており、積極的に受注を獲得いたしまして、着実に実績を積み上げております。

株式会社TechCarryで展開しております、番組制作等でプロの技術者が使用する機材レンタル事業や編集作業を行うポストプロダクション事業につきましては、事業規模の拡大に必要な機材について、一定の商材確保が完了しており、着実に実績を積み上げております。

制作スタッフの派遣事業につきましては、派遣先である映像制作会社の状況に伴って、派遣の受け入れの変動はあるものの、引き続き順調に推移しております。

以上の結果、映像制作事業の業績は、売上収益1,466百万円(前年同四半期比+13.9%)、セグメント利益116百万円(前年同四半期比+91.7%)となりました。

[広告代理店事業]

同事業につきましては、主にAFにおきまして、特に株式会社セブン-イレブン・ジャパンが展開しているセブンネットショッピングにおいて、年間を通して様々な取り組みを実施しております。広告代理店における、当第1四半期連結結果期間において実績となった同社との主な実施案件は以下のとおりであります。

EC販売開始日	案件名
2022年6月1日～	go!go!vanillas オフィシャルグッズ販売
2022年11月10日～	Dragon Ash 25周年記念 オリジナルグッズ販売
2022年11月30日～	5ビースト オフィシャルアイテム販売 / フォロー&リツイート キャンペーン
2022年12月7日～	UNICORNデビュー35周年記念ギフト UNICORN×八天堂 記念セット
2022年12月12日～	UNICORNデビュー35周年記念ギフト UNICORN×酔心 鳳凰酔心 窮極の大吟醸
2023年1月13日～	Live the SPEEDSTAR オリジナルグッズ販売
2023年1月25日～	ゆず オリジナルグッズ販売
2023年2月10日～	Dragon Ashドラママー 桜井誠プロデュース桜井食堂ダブルペッパーポークカレー

上記のほか、有名スポーツ選手を起用したテレビCMに関する案件、スポーツ競技や各種イベント、著名アーティストの協賛に関わる業務、行政機関や各企業、学校法人等からの依頼案件において実績を積み上げております。

株式会社FA Projectにて展開するデジタル広告事業では、前期に開始した、インターネット広告事業及びインターネットメディア事業を展開しており、男性用脱毛サロンやフィットネスジム、ゴルフレッスンスクール等の顧客獲得の実績を積み上げており、クライアントの要望に基づく広告案件を、YouTube等の動画配信プラットフォームを中心としたSNS媒体向けに制作するほか、アフィリエイト広告等の戦略的な広告展開を図っております。

以上の結果、広告代理店事業の業績は、売上収益2,452百万円(前年同四半期比+405.0%)、セグメント利益68百万円(前年同四半期比+312.8%)となりました。

[その他事業]

同事業につきましては、当社において不動産賃貸事業を展開しております。

以上の結果、その他事業の業績は、昨年9月末に運送事業の全株式を譲渡したことにより、売上収益24百万円(前年同四半期比△73.1%)、セグメント利益6百万円(前年同四半期比△74.5%)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び資本の状況

当第1四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べて931百万円増の27,353百万円となりました。これは主として営業債権及びその他の債権が増加したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて304百万円増の8,731百万円となりました。これは主として営業債務及びその他の債務が増加したことによるものであります。

資本につきましては、前連結会計年度末に比べて626百万円増の18,621百万円となりました。これは主として自己株式の取得により減少した一方で、親会社の所有者に帰属する四半期利益の計上により利益剰余金が増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ836百万円減少し3,702百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、34百万円の資金の減少（前年同四半期は1,066百万円の資金の減少）となりました。これは主として税引前四半期利益に加え、営業債務及びその他の債務の増加により資金が増加した一方で、持分法による投資利益の計上に加え、営業債権及びその他の債権の増加により資金が減少したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、150百万円の資金の減少（前年同四半期は1,925百万円の資金の増加）となりました。これは主として敷金保証金の差入による支出によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、650百万円の資金の減少（前年同四半期は1,423百万円の資金の減少）となりました。これは主として自己株式の取得、利息及び配当金の支払によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年12月期における通期連結業績予想につきましては、売上収益を24,000百万円、営業利益を2,200百万円、親会社の所有者に帰属する当期利益を2,000百万円と見込んでおります。

当社グループにおきましては、企業としての社会的責任を全うするべく、国内外の動向に対しては最大限の配慮をしつつ、機動的に必要なかつ十分な対策を行いながら積極的な事業活動を展開してまいります。

〔総合エンターテインメント事業〕

ライブ・エンターテインメント部門につきましては、所属アーティスト・モデル・俳優・タレント・スポーツ選手等の様々な活動を通して、多くのファンの皆様にご支援いただけるプロダクション運営を行ってまいります。

当第2四半期以降における大型イベントの開催予定等につきましては、乃木坂46が4月5日から27日にかけて、全8公演の「32nd SGアンダーライブ」を開催いたしましたほか、5月17日及び18日に東京ドームにおきまして「齋藤飛鳥卒業コンサート」の開催を予定しており、ご期待にお応えできるよう鋭意準備を進めております。SKE48はチームS及びチームKIIによるオリジナル新公演を引き続き行っていくことに加え、5月31日に「SKE48 熊崎晴香ソロライブ～MAKE SOME NOISE～」の開催を予定しているほか、夏には全7公演の「SKE48 SUMMER Tour 2023」を予定しております。また、7月5日には「31stシングル(タイトル未定)」のリリースが決定しており、引き続き良いご案内ができるよう積極的に取り組みを強化してまいります。NovelBrightにつきましては、大型の音楽イベントへの出演に加え、4月からは全国19都市を廻る全国ツアーを開催しているほか、NHK総合で放送中のTVアニメ「弱虫ペダル LIMITED BREAK」の第2クールでのオープニングテーマや、4月12日にリリースいたしました新曲「Cantabile」がNHK Eテレ・アニメ「青のオーケストラ」のオープニングテーマに決定するなど、引き続き、積極的な活動を展開しております。

また、俳優としての評価が上がっている若月佑美や生駒里奈、小栗有以のほか、TikTokのフォロワー数700万人を誇る元ハンドボール日本代表キャプテンの土井レミイ杏利等の複数の所属アーティスト、タレントが、5月4日に代々木体育館で開催された「Rakuten GirlsAward 2023 SPRING/SUMMER」に出演するなど、活躍の幅を拡げており、引き続き積極的な活動を展開してまいります。

デジタル・コンテンツ部門につきましては、「乃木恋」や「ひなこい」等人気の高いスマートフォン向けのゲームアプリに関わる支援を継続する一方で、当社グループの自社IPコンテンツを含めた新たなアプリ開発や支援にも積極的に取り組むほか、様々なアプリ関連の案件においてプロモーションや企画制作の面で携わることで、更なる事業規模の拡大に努めてまいります。

〔映像制作事業〕

現在の制作案件の主流である、各テレビ局からの依頼に基づく制作案件を積極的に継続してきたことで、バラエティ番組では、企画・制作力を活かして、「千鳥の鬼レンチャン(フジテレビ)」や「イタズラジャーニー(フジテレビ)」、「熱狂マニアさん(TBS)」などがレギュラー放送されており、今期につきましても「THE神業チャレンジ(TBS)」が4月11日よりレギュラー放送されており、引き続き実績を積み上げております。

その他、「週刊ビッグコミックスピリッツ」連載中の人気コミック「君は放課後インソムニア」をUPの企画・製作により実写映画化し、6月23日より全国公開予定のほか、全世界190カ国以上で同時配信されていた「トークサバイバー!～トークが面白いと生き残れるドラマ～(Netflix)」のシーズン2の制作が進行しております。引き続き制作プロダクションとして当該番組に携わるなど、更なる業容の拡大に向けまして、多くの制作案件に携わってまいります。

映像制作スタッフを専門に取り扱う派遣事業につきましては、安定的に映像制作会社への派遣を行う一方で、引き続き優秀なクリエイター人材の確保と養成・育成を積み上げつつ、今後も当該新規事業を含めた積極的な展開を図ってまいります。

また、4月19日付け「当社孫会社における事業譲受に関するお知らせ」及び5月1日にUPより公表されている「株式会社UNITED PRODUCTIONSが、グローバル基準の映像作品の制作を行うコンテンツスタジオ「TOKYO ROCK STUDIO」を設立」とおり、グローバルスタンダードな映像制作現場のバックオフィス業務において重要な役割を担う、制作経理業務を行うことを目的として新会社を設立いたしました。さらに、グローバル向け作品の制作を手掛けるため、創業メンバーに強力なプロデューサー陣を編成するほか、国内に多数存在する優れたオリジナル原作を世界規模の映像コンテンツに昇華させるために、脚本家を中心としたライターズルームの開設も予定しており、バックオフィス機能とクリエイティブ機能を併せ持つ映像コンテンツ制作会社としての第一歩を踏み出しました。

今後も業況に合わせた社内体制や予算管理体制の更なる強化を図り、映像制作におけるノウハウと人材派遣で培った多くの制作会社や各放送局、各種配信プラットフォーム等とのリレーションを活かすと共に、開始するプロダクションバックオフィス事業を掛け合わせ、安定的かつ高品質の制作案件を継続的に手掛けることで、さらなる収益構造の強化を目指します。

〔広告代理店事業〕

デジタル広告分野につきましては、YouTube等の動画配信プラットフォーム向けの広告案件を手掛けることにより、TikTokやInstagram、Facebook、LINE Ads Platform等、広告媒体としての活用度に拡がりを見せているデジタル広告プラットフォームに対して、インターネット広告事業及びインターネットメディア事業に関する事業を引き続き展開してまいります。

広告代理店分野につきましては、イベントの企画・提案・開発のほか、企画に基づく商品企画のマネタイズもできる等、クライアントの要望を一手に引き受けられるノウハウを背景に、大手企業やスポーツチーム、著名アーティスト等とのタイアップを行っており、今後もグループの強みを生かした積極的な営業戦略によって、事業規模の拡大に努めてまいります。

また、同事業におきましては、過去の実績に基づくグループシナジーによる広告案件の受注戦略をとるほか、不動産業界や金融業界等の新たな事業分野への積極的な展開を図ることで、更なる業容の拡大を図ってまいります。

〔その他事業〕

不動産賃貸事業につきましては、引き続き安定した運用を行ってまいります。

本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであるため、実際の業績や市場環境は、今後様々な要因によって変更となる可能性があります。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第1四半期 連結会計期間 (2023年3月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	4,538,770	3,702,759
営業債権及びその他の債権	3,506,718	4,712,201
その他の金融資産	956,385	949,927
棚卸資産	449,819	490,140
その他の流動資産	145,961	163,062
流動資産合計	9,597,655	10,018,090
非流動資産		
有形固定資産	1,152,041	1,043,228
のれん	5,215,259	5,215,259
無形資産	1,959,621	1,868,071
投資不動産	954,550	943,268
持分法で会計処理している投資	6,495,093	7,227,797
その他の金融資産	799,464	798,862
繰延税金資産	61,011	61,007
その他の非流動資産	187,394	177,519
非流動資産合計	16,824,435	17,335,015
資産合計	26,422,091	27,353,106

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第1四半期 連結会計期間 (2023年3月31日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	3,077,177	3,480,058
社債及び借入金	845,564	845,564
その他の金融負債	581,585	675,882
未払法人所得税等	175,677	214,687
引当金	—	37,553
契約負債	444,470	450,598
その他の流動負債	244,740	255,398
流動負債合計	5,369,216	5,959,742
非流動負債		
社債及び借入金	1,148,710	1,003,942
その他の金融負債	1,082,875	969,084
長期従業員給付	146,045	150,728
引当金	166,595	164,529
繰延税金負債	514,177	483,770
非流動負債合計	3,058,403	2,772,054
負債合計	8,427,620	8,731,797
資本		
資本金	92,450	92,450
資本剰余金	14,660,367	14,661,532
自己株式	△94,655	△285,005
その他の資本の構成要素	86,597	86,970
利益剰余金	3,645,088	4,458,399
親会社の所有者に帰属する持分合計	18,389,847	19,014,347
非支配持分	△395,376	△393,038
資本合計	17,994,471	18,621,309
負債及び資本合計	26,422,091	27,353,106

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書
(要約四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
売上収益	4,191,339	6,997,329
売上原価	3,260,362	5,642,766
売上総利益	930,977	1,354,562
販売費及び一般管理費	856,026	882,956
持分法による投資利益	525,941	732,704
その他の収益	49,517	6,711
その他の費用	5,432	2,129
営業利益	644,977	1,208,892
金融収益	226,125	2,168
金融費用	18,497	15,720
税引前四半期利益	852,605	1,195,341
法人所得税費用	108,274	191,327
四半期利益	744,330	1,004,014
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	753,456	1,001,676
非支配持分	△9,125	2,337
四半期利益	744,330	1,004,014
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益	39.79	53.28
希薄化後1株当たり四半期利益	39.79	53.28

(要約四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
四半期利益	744,330	1,004,014
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金 融資産	1,784	503
純損益に振り替えられることのない項目合計	1,784	503
税引後その他の包括利益	1,784	503
四半期包括利益	746,115	1,004,517
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	755,241	1,002,179
非支配持分	△9,125	2,337
四半期包括利益	746,115	1,004,517

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第1四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年3月31日)

(単位:千円)

	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
2022年1月1日時点の残高	6,566,249	8,198,961	△29,309	77,617	1,955,790	16,769,309	△375,836	16,393,473
四半期利益					753,456	753,456	△9,125	744,330
その他の包括利益				1,784		1,784		1,784
四半期包括利益合計	—	—	—	1,784	753,456	755,241	△9,125	746,115
剰余金の配当					△189,352	△189,352		△189,352
自己株式の取得			△548			△548		△548
利益剰余金への振替					△0	△0		△0
所有者との取引額合計	—	—	△548	—	△189,352	△189,900	—	△189,900
2022年3月31日時点の残高	6,566,249	8,198,961	△29,857	79,402	2,519,894	17,334,650	△384,962	16,949,687

当第1四半期連結累計期間(自2023年1月1日至2023年3月31日)

(単位:千円)

	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
2023年1月1日時点の残高	92,450	14,660,367	△94,655	86,597	3,645,088	18,389,847	△395,376	17,994,471
四半期利益					1,001,676	1,001,676	2,337	1,004,014
その他の包括利益				503		503		503
四半期包括利益合計	—	—	—	503	1,001,676	1,002,179	2,337	1,004,517
新株予約権の行使				△130		△130		△130
剰余金の配当					△188,365	△188,365		△188,365
自己株式の取得		△866	△201,057			△201,924		△201,924
自己株式の処分		2,032	10,708			12,740		12,740
所有者との取引額合計	—	1,165	△190,349	△130	△188,365	△377,679	—	△377,679
2023年3月31日時点の残高	92,450	14,661,532	△285,005	86,970	4,458,399	19,014,347	△393,038	18,621,309

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	852,605	1,195,341
減価償却費及び償却費	246,514	238,479
受取利息及び受取配当金	△1,674	△1,343
支払利息	15,576	10,820
持分法による投資損益(△は益)	△525,941	△732,704
固定資産売却損益(△は益)	△27,059	—
純損益を通じて公正価値で測定する金融商品の公正 価値変動	△197,352	10,230
営業債権及びその他の債権の増減額(△は増加)	1,009,404	△920,850
棚卸資産の増減額(△は増加)	161,573	△40,320
未収還付法人税等の増減額(△は増加)	—	△159,706
営業債務及びその他の債務の増減額(△は減少)	△1,216,496	392,364
契約負債の増減額(△は減少)	△170,556	6,127
預り金の増減額(△は減少)	△53,780	△54,443
配当源泉税の未払いの増減額(△は減少)	△1,026,388	168,112
引当金の増減額(△は減少)	13,329	37,553
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	7,233	4,682
その他	32,408	△21,409
小計	△880,605	132,933
法人所得税等の支払額	△185,709	△167,364
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,066,314	△34,430
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△400,000	—
有形固定資産の取得による支出	△1,083	△31,879
有形固定資産の売却による収入	2,926	—
無形資産の取得による支出	△9,792	△400
投資不動産の売却による収入	406,220	—
投資有価証券の売却による収入	1,913,633	—
敷金保証金の差入による支出	△9	△133,104
敷金保証金の回収による収入	8,644	13,268
資産除去債務の履行による支出	—	△2,065
利息及び配当金の受取額	1,674	1,343
その他	3,371	2,113
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,925,583	△150,724
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△500,000	—
長期借入金の返済による支出	△361,677	△144,768
社債の償還による支出	△222,080	—
自己株式の取得による支出	△548	△201,057
利息及び配当金の支払額	△187,592	△172,762
リース負債の返済による支出	△144,277	△144,005
新株予約権の行使に伴う収入	—	12,610
その他	△7,741	△873
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,423,916	△650,856
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△564,647	△836,011
現金及び現金同等物の期首残高	3,607,839	4,538,770
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,043,192	3,702,759

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

当社グループの要約四半期連結財務諸表において適用する重要性がある会計方針は、以下を除き、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

また、当第1四半期連結累計期間の法人所得税費用は、見積年次実効税率を基に算定しております。

なお、当社及び一部の子会社は、当第1四半期連結会計期間より、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。

当社グループは、当第1四半期連結会計期間より、以下の基準を適用しております。

IFRS		新設・改訂の概要
IAS第1号	財務諸表の表示	重要な (significant) 会計方針ではなく、重要性がある (material) 会計方針の開示を要求する改訂
IAS第8号	会計方針、会計上の見積りの変更及び誤謬	会計方針と会計上の見積りとの区分を明確化
IAS第12号	法人所得税	リース及び廃棄義務に係る繰延税金の会計処理を明確化

上記基準書の適用による要約四半期連結財務諸表に与える重要な影響はありません。

(セグメント情報)

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会等が経営資源配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、当社及び当社の連結子会社を基礎とした業種別のセグメントから構成されており、「総合エンターテインメント事業」、「映像制作事業」、「広告代理店事業」の3つの事業セグメントを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの概要は以下のとおりであります。

- | | |
|------------------|---|
| 「総合エンターテインメント事業」 | : タレント及びアイドル等の芸能プロダクション運営・管理
イベントの企画・運営及びイベントスペースの運営・管理など |
| 「映像制作事業」 | : 各種映像コンテンツの企画・制作
映像制作スタッフの養成及び派遣など |
| 「広告代理店事業」 | : タレント・アーティスト等のキャスティング
デジタル広告及びプロモーションの企画・開発
インターネット広告事業及びインターネットメディア事業など |

(2) セグメント収益及び業績

当社グループの報告セグメントによる収益及び業績は以下のとおりであります。
 なお、セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

前第1四半期連結累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年3月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント			
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業	計
売上収益				
外部収益	2,327,121	1,287,775	485,646	4,100,543
セグメント間収益	34,262	6,342	12,805	53,410
合計	2,361,384	1,294,117	498,451	4,153,953
セグメント損益(注)3 (営業利益又は営業損失 (△))	731,996	60,950	16,585	809,532

金融収益

金融費用

税引前四半期利益

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結
売上収益				
外部収益	90,796	4,191,339	—	4,191,339
セグメント間収益	—	53,410	△53,410	—
合計	90,796	4,244,749	△53,410	4,191,339
セグメント損益(注)3 (営業利益又は営業損失 (△))	24,787	834,319	△189,342	644,977

金融収益

226,125

金融費用

18,497

税引前四半期利益

852,605

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に不動産事業及び運送事業であります。
2. セグメント損益の調整額△189,342千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント損益は、要約四半期連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自2023年1月1日至2023年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業	計
売上収益				
外部収益	3,054,147	1,466,353	2,452,398	6,972,899
セグメント間収益	18,532	1	27,608	46,142
合計	3,072,679	1,466,355	2,480,007	7,019,041
セグメント損益(注)3 (営業利益又は営業損失 (△))	1,156,295	116,842	68,459	1,341,597

金融収益

金融費用

税引前四半期利益

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結
売上収益				
外部収益	24,430	6,997,329	—	6,997,329
セグメント間収益	—	46,142	△46,142	—
合計	24,430	7,043,472	△46,142	6,997,329
セグメント損益(注)3 (営業利益又は営業損失 (△))	6,314	1,347,911	△139,018	1,208,892

金融収益

2,168

金融費用

15,720

税引前四半期利益

1,195,341

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に不動産事業であります。
 2. セグメント損益の調整額△139,018千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 3. セグメント損益は、要約四半期連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。